



吉田 いくよ

○回目の誕生日を迎えます。昨年十一月に母を葬送り、先日長野に納骨をしました。一区切り、気持ちに落ち着いたところです。毎年自分の誕生日は母に感謝する日と決めていたので、その気持ちが形で伝わる事が出来ないことが少し寂しい気がしています。長野では善光寺さんには必ずお参りします。仁王門から参道の石畳を歩きながら、立派な山門をくぐります。大きくてでなく、山門の内部には四天王に囲まれた木造文殊菩薩座像、そして四国八十八か所の札所本尊を模刻した百体仏が祀られているのです。この門は「知恵の門」とも呼ばれています。

お戒壇巡り最初に行ったのは小学一年生の頃。本堂の一番奥に位置し、ご本尊の真下を通る真っ暗な通路です。極楽浄土への往来が約束されるお戒壇巡り。善光寺の御本尊様は絶対秘仏となりますので、お姿を見ることはできません。普段は幕の奥の「瑠璃壇」に安置されています。一寸先も見えないその通路の一番奥にある「極楽の錠前」を探っていくのですが、この錠前が「ご本尊と結ばれており、触れることで直接縁を結ぶ」といわれています。心にやましいことがあると暗闇を進む事はできないといわれ、子供心にも「何も悪いことはしていません」との気持ちをもちて闇を進むことが出来ました。

ラジオドラマでこのお戒壇巡りをテーマにしたものがありました。若い男女がキャッキャッとふざけながらお戒壇巡りをしている。そのうち男の子が行方不明になってしまった。このお戒壇巡りは右手を腰のあたりの高さですずくと壁を伝っていくことになっているのに、ふざけているうちに右回りか左回りか分からなくなり不明になってしまった。ドラマではありましたが、大切なことをガシッと受け止めることが出来た覚えがあります。

善光寺さん本堂に入つてすぐには「びんずる尊者」が鎮座しています。三百年以上多くの方に撫でられ続け、目も鼻も耳も表面がツルツルになっています。自分の体の悪いところと同じ箇所をなでる事で、痛みを取ってくれたり癒してくれたりするといわれています。私はいつも尊者のお顔を崇めると涙が出ます。有難い気持ちとお辛いだらうという気持ちからです。善光寺さんは創建以来一四〇〇年の長きにわたり、阿弥陀如来様との結縁の場として、私にとっても、心の拠り所となっています。

今年の年間テーマは： 駆ける

馬編の漢字（駆・駒・駐・験・驚・驛・馳・憑・駅・騎）をテーマにお届けします。



今月は【験】

水野 裕子

ふくしまデステイネーションキャンペーンが四月一日から始まりました。キャッチコピーは「しあわせの風ふくしま」風の恵・風の香・風の詩・風の路の四つのテーマを通じて福島県の魅力を感じることが出来るスペシャルな体験ができるイベントです。

私のふるさと「ふくしま」。幼い頃は気付かなかった魅力も、大人になった今ではみんなに自慢したいポイントばかり。東京や大阪の友人が遊びに来る時は、ふくしまの良さを伝えたくてツアー内容を考え案内します。自然の美しさや温泉、美味しいお酒にお料理を堪能し「また絶対来るね！」と大満足で帰っていきます。

改めてこの四月から始まった「ふくしまデステイネーションキャンペーン」を自ら体験し「しあわせの風」を感じたいと思いました。

パンフレットを見つけて体験したいと思った「花の王国ふくしまスタンプラリー2026」県内のお花のスポットを巡りスタンプを集めます。サクラに始まり六月までの間に様々な花をめぐるツアーを楽しめそうです。芝桜、あやめ、アジサイ…初めて聞く場所もあり時間を見つけてぜひ訪れてみたいと思っています。

写真も撮るのですが、なかなか上達せずスマホの中に蓄積されているだけ。撮影のスキルも上げていきたいですね。何事も経験です。

浜・中・会津の各エリアで趣向を凝らしたイベントが開催される「ふくしまデステイネーションキャンペーン2026」。電車で揺られ会津方面に向かい鶴ヶ城で野点を体験できるツアーも魅力的。今から楽しみにしているイベントは六月に開催される「ふくしまの酒・味噌・醤油まつり」醸造王国ふくしまの酒・味噌・醤油をはじめとする食の魅力を発信するイベントです。

様々な体験を通してこれからも大好きな福島を、福島の良いところを伝えて行きたいと思っています。

國井 明美

善い行いは良い結果に、悪い行いは悪い結果を招く「因果応報」ということをわかってはいても、大切な試験や勝負事の場面で「験担ぎ」にすぎりたくなるのが、人間です。

そもそも「験を担ぐ」という言葉は「縁起を担ぐ」からきていると言われています。「縁起」は因縁によって万事が生じ起こるといふ仏教的な思想を表す言葉で、「担ぐ」は「気にする」という意味で使われます。これがどうして「験」になったかというと、江戸時代に逆言言葉が流行ったからと言われている。例えば、私たちが普段使っている「だらしがない」の元は「しだらがない」、「新しい」は「あらたしい」だったのですが、逆言言葉の流行で今の読み方になったそうです。つまり業界用語のような「ワイハー（ハワイ）や「シースー（寿司）」のような言い方から「縁起担ぎ」↓「ぎえん担ぎ」↓「げん担ぎ」となり、修行を積んだ証や祈禱の効果という意味が含まれる仏教用語の「験」の字が当てられたと言われています。【引用：語彙力.COM】

「験担ぎ」は成功への意欲や安心感をもたらす心理的な効果がある一方、数字やカラー・行動などに執着し過ぎると、本来の原因追及が困難になりがちです。もししたら単なる準備不足だったかもしれないのに、あの行動をしなかったからこんな結果になってしまったのだと、見えない強迫観念から自分を追い込み、苦しめることさえあります。

五月を迎え、新しい環境によりやく馴染んできたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。見上げると、いつの間にか初々しい若葉でいっぱい。ワイハーや「シースー」のような逆言言葉の流行りから生まれた「験担ぎ」。もつと肩の力を抜いて「験担ぎ」でも「ケセラセラ」でも、せっかくなので良いモノは何でも取り入れ唱えて、ポジティブに歩いてみましょう。何があってもそれを含めて自分の人生、尊い毎日なのですから。



冨本 理子

「験」という漢字は「ためす」「しらべる」、また「あかし」「しるし（効き目）」を意味し、試験や実験、経験、受験などで広く使われています。ゲン担ぎという言葉でも象徴的な漢字です。

私自身の人生を振り返ると、高校受験、大学受験、アナウンサー試験など、いくつかの節目がありました。いずれも遠い昔のことになりました。特に高校受験のときは少し背伸びをした挑戦で、神頼みにも頼る日々でした。本番前の一か月は朝型生活に切り替え、毎朝早起きして勉強に励みをするのが日課でした。雪の日には頭を濡らしながら膝丈ほど積もった雪の中を長靴でザクザクと足跡をつけながら通った記憶があります。第一志望に合格した日の喜びは今でも鮮明に覚えています。

最近では息子二人の大学受験が記憶に新しい出来事です。滑り止めに落ちるなど順調ではなく、親として不安になる場面も多くありました。支える立場でありながら余計なことを言ってしまう、息子に叱られることもありましたが、ママ友と話すと、皆それぞれ神社に通ったり、善行を意識したりと同じように悩みながら過ごしていたと知り、少し安心したのを覚えています。

未熟な私ですが、これからもさまざまな出来事に向き合いながら歩んでいきたいと思っています。振り返れば、その一つひとつが「験」として積み重なり、今の自分につながっているのだと感じます。

【編集後記】

新緑の季節。春の気配も落ち着き、穏やかな日々が続いています。初夏の風に良き験を感じながら、日々の業務への感謝を胸に前進してまいります。

